

# 子宮頸がんワクチンは「新手の公共事業」だ

田中康夫

作家・元衆議院議員

子宮頸がんワクチンは羊頭狗肉だ

—— 田中さんは子宮頸がんワクチンに、いち早く警鐘を鳴らしてきました。

田中 民主党政権時代の2010年

秋、仙谷由人官房長官が旗振り役を務めて次年度予算の特別枠で子宮頸がん「予防」ワクチン公費助成を概算要求している。と知った僕は、衆議院で統一会派を組んでいた亀井静香氏に伝えました。「堆砂の浚渫や護岸の補修、森林の整備もせずに、何十年も掛けてダムさえ造れば全ての洪水を防げると豪語する。幻説」と似た、これは「筋の



悪い新手の公共事業」ですよ」と。その後から、批評家の浅田彰

氏と「ソトコト」誌での「憂国呆談」や「週刊SPA!」「VERDAD」「サンデー毎日」等の僕の連載で幾度も言及しています。

そもそも子宮頸がんワクチンという呼び方自体が羊頭狗肉です。子宮頸がんを誘発する可能性が高いと言われるHPVヒトパピローマウイルスへの感染を「予防」するワクチンに過ぎず、だから厚生労働省の文書でも「子宮頸がん予防ワクチンは新しいワクチンのため、子宮頸がんそのものを予防する効果はまだ証明されていません」と記されているのです。

僕が一昨年末に上梓した長編小説「33年後のなんとなく、クリスタル」の中でも登場人物が呟く、以下のシーンが登場します。「ワクチンだけに頼

り切るのとはどうなのかな。ワクチンさえ打てば子宮頸がんにはならないと思っ込んでいる人が多いけど、そういうわけではないでしょ。」

であればこそ欧米では、早期発見・早期治療の大原則に基づき、性交を経験済みの女性に子宮頸がん検診を徹底し、ヨーロッパでの検診率は7割台。なのに、日本は年少扶養控除の廃止で「財源」を捻出し、小学6年から高校1年の女子を対象に1人4・8万円、毎年1000億円近い公費を投じて接種を始めた一方、子宮頸がん検診の費用は自己負担で、検診率は3割台に留まります。皮肉にも、ワクチン接種再開の「圧力」を日本に掛け続けるアメリカに至っては検診率が8割台に達しているのにな。

科学者こそ非科学的だ

—— 最近では月刊誌「Wedge」が子

宮頸がんワクチンを推進しています。

田中 「子宮頸がんワクチンは危ない」という主張に科学的根拠はありません」と筆名・村中璃子で論陣を張る中村理子さんを起用してね(苦笑)。

一橋大学で社会学を、北海道大学で医学を学び、米国系製薬会社ファイザーが買収したワイズ社日本人でワクチンメデイカルマネージャーの経歴を持つ彼女は、「あの激しいけれんは本当に子宮頸がんワクチンの副反応なのか」、「子宮頸がんワクチン薬害説にサイエンスはあるか」と同誌のウェブ版でも、失神や意識消失、感覚障害、記憶障害等の深刻な副作用を訴える人々を糾弾している。副作用でなく副反応と言いつつ、後ろめたさ満載だ。でもね、子宮頸がんワクチン接種者10万人当たり61・6人もの高確率で副作用が続出し、重篤な副作用の発生率も同じく28・7人に達したからこそ、さしもの厚労省も3年前に接種の推奨

を一時的に控えよと全国の自治体に勧告したわけだ。他の予防接種では有り得ない異常事態の続出を受けて、予防接種と副作用の因果関係を明らかにする抜本的な調査の実施は大前提でしよ。

—— ところが村中氏は、福島県出身で社会学者の開沼博氏との対談「Wedge」5月号で、「行政は……い加減に決断しなければいけない。専門家委員会が繰り返し結論(注・「心身の反応」)を出し、WHO(世界保健機関)にこれだけ言われ、日本人の集団においてもワクチン接種と症状の因果関係を否定する名古屋市の調査結果がある」と述べています。

田中 お上の判断には盾突くな、という若き「非社会学者」の前近代的な対談なのかな(爆笑)。確かに現時点で、子宮頸がんワクチンもフクイチ周辺の低線量被曝も、有害だと実証されている訳ではない。でも、だからこそ、畏友・浅田氏の発言を借りれば、「よく

わからないってことを認めてかかるのが科学だし、わかってないからこそ警戒すべき」。つまり因果関係は解らない、と認めることから科学は始まるんだよ。

なのに、日本産婦人科学会、日本産婦人科医学会、日本婦人科腫瘍学会が連名で発表した「接種の勧奨再開を求めた声明」は、「接種後2週間以内の「痛み」は副反応かもしれないが、それ以降の「痛み」は精神的要因による「心身の反応」である」と。戦時中の「竹槍。精神論かと思ふう思考回路で驚くね。苦痛を訴える女性に非科学的というレッテルを貼り、心身症だと決めつけることこそ「非科学的」でしよ。

初代厚労大臣で医師の坂口力氏が理事長を務める難病治療研究振興財団の原因究明チームが、接種から重い症状が出るまでの平均期間を約8・5か月とした上で、「一連の症状は、心身反応よりも、ワクチンに含まれる免疫補

助剤に反応して脳神経が炎症を起こしている」と解釈した方が合理的だ」と指摘しているのが唯一の救いだ。

—— 公害や薬害に際して専門家が主張する「科学」は非科学的に見えます。田中 実は今から60年前、水俣病第1

号患者が公式確認されたにも拘らず、因果関係は存在せずと東京大学医学部は強弁し続けた。子宮頸がん「予防」ワクチンを巡る不毛な神学論争は、「科学を信じて・技術を疑わず」のタコツボ的な「専門知」が再び跳梁跋扈する

困った今の日本の空気を体現していますね。マトリックスで示される形式知でなく、勘性と叫ぶべき「暗黙知」を駆使して、「科学を用いて・技術を超越る」考える輩であつてこそ、日本が誇るマイスターなのですが。